

蛭たちの祈り

著者名： 町田そのこ
出版社： 東京創元社

蛭が舞う夏祭りの夜——山間にある小さな町に暮らす中学生の坂邑幸恵と桐生隆之は、生きるために互いの秘密を守り合うことを決めた。それから十五年後、大人になった幸恵と隆之の予期せぬ再会が、家族や友人、町の人々の人生に大きな影響を与えていく。明かせぬ秘密を抱え、思い描いた道のりではなかった。それでも、この小さな光が照らす世界を大切に生きたい。一人一人のささやかな祈りを描いた、心震える傑作小説。

マスカレードライフ

著者名： 東野圭吾
出版社： 集英社

ホテル・コルテシア東京で開催されることになった、『日本推理小説新人賞』の選考会。当日、文学賞受賞の候補者として、ある死体遺棄事件の重要参考人が会場に現れる!？警視庁を辞め、コルテシア東京の保安課長となった新田浩介が、お客様の安全確保を第一に新たな活躍をみせる!

僕の悲しみに君は跳んでくれ

著者名： 岡本 雄矢
出版社： 幻冬舎

札幌で高校時代を過ごした仲間たちには、共通した「忘れない瞬間」がある。学校祭の中庭のステージで見た、瀬川壮平の姿だ。当時の仲間たちが同窓会と称して集まっていたある日、母校の中庭が無くなるというニュースが。もう一度、あの場所で壮平を見たい!しかし、東京でプロの活動を始めた壮平のステージは果たして実現するのか?10代を共に過ごした仲間と、もう一度青春することはできるのか?掴めそうで手放してしまった「欲しかった未来」に、もう一度手を伸ばしてもいいのか?大人になってなんとなく流されていく日々に、「あのとき感じた希望の感触」が蘇る!

風読みの彼女

著者名： 宇山 佳佑
出版社： 集英社

横須賀で暮らす二十二歳・野々村帆高。職を探す彼が偶然見つけたのは、『ガラス雑貨専門店・風読堂』でのアシスタントの募集だった。風読堂の店主・級長戸辺風架さんは、ガラス雑貨の販売に加え、もうひとつ秘密の依頼を受けている——“風読み”の仕事だ。にわかには信じがたい風架さんの力を求めて、今日も風読堂には悩みと願いを抱えた依頼主が訪れる……。

給水塔から見た虹は

著者名： 窪 美澄
出版社： 集英社

中学2年生の桐乃は、団地での暮らしに憂いていた。郊外にある古い団地群には、様々な国にルーツを持つ人が生活している。そのせいか桐乃のクラスは衝突が絶えず、ベトナム人のクラスメイト・ヒュウがいじめの標的になっていたのだ。家に帰っても、母の里穂は団地に住む人々を国籍問わず日夜助けており、「娘の私より、他人を優先するんだ」という思いがどうしても消えない。この場所で生活することに対する桐乃の嫌悪感は、日々強まっていく。そんな中、中学校で起きたとある出来事をきっかけに、桐乃はヒュウと話すようになる。ヒュウは、理由は違えども、桐乃と全く同じことを望んでいた。

アカシアの朝

著者名： 櫻木 みわ
出版社： 小学館

K-POPデビューを夢見る陽奈と、大学進学する幼なじみに思いを寄せるソユン。日韓のふたりの少女は、それぞれの理由から芸能事務所の練習生としてソウルで暮らし始めた。ブラジル、タイなど各国出身の練習生とのつながりは深まる一方、韓国芸能界の荒波に心と体をすり減らしていく——

K-POP、韓国ドラマ、ハイトスピーチ、領土問題、南北朝鮮、戦争、植民地。全てを描き抜いた傑作——スケザネ氏（書評家）

情熱

著者名： 桜木 紫乃

出版社： 集英社

40年ぶりに再会を果たした同級生のカメラマンとスタイリスト——「兎に角」
「ポケたら関係解消」が条件の70代ホストと美容師——「ひも」
遅咲き小説家と過去をあかさぬ大学教授——「情熱」
ほか、全6編。

バッドフレンドライク・ミー

著者名： 井上 先斗

出版社： 文藝春秋

姫に飛ばれて300万円の借金を抱える元ホストの森有馬。
自信も金もない、しょうもない自分に嫌気が差している。
そんなときに飛び込んできた“うまい話”。
怪しいのはわかっている、それでも。

待ち合わせ場所にいたのは、真っ青なスーツに身を包んだ胡散臭い男だった。
ジンと名乗るその男が有馬に課した「七つの試練」。
こなすたびに数万円の報酬が支払われる。
そして最後の試練を成し遂げたその時、
〈500万円〉と自信が手に入る、らしい。
「必ず、意識をしてほしい。
自分が、いま行っているのは非合法な何かへの助走だ」と

ONE PEACE112

著者名： 尾田 栄一郎

出版社： 集英社

念願のエルバフに上陸しロビンがサウロと待望の再会を果たす。そして未知の秘境で新たな冒険が動き出す一方で不穏な空気を纏った侵入者が出現し、嵐の予感!? “ひとつなぎの大秘宝”を巡る海洋冒険口マン!!

まだ大どろぼうになっていないあなたへ

著者名： ヨシタケシンスケ

出版社： ブルーシープ

許されざる罪人でありながらも、古今東西の物語に数多く描かれてきた「どろぼう」。超人的な能力者として、謎めいたヒーローとして、時にはおっちょこちょいで親しみのある存在として、人はどろぼうに憧れ、なぜか惹かれてしまうものです。
そんな不思議な存在のどろぼうに、ヨシタケシンスケさんが初めて挑みました。ヨシタケさんの描く「大どろぼう」は、特別な能力も強さもなければ、悪人でもありません。「大どろぼう」になることとは、わたしたちが、知らず知らずのうちに失った大切なものを取り戻すこと。大切なものを取り戻し、あなたが本当の自由を手にする事。

うまくいかない日や思いどおりにならない気持ちも、「大どろぼう」になって視点を変えてみれば、また明日を楽しもうと思えるかもしれない、そんな温かな励ましが込められている一冊です。

著者名：
出版社：著者名：
出版社：